

【イベント案内】

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

- 自然教室「丹沢の古き森を訪ねて
～アカガシの大木に会いに行こう～」
内容：宮ヶ瀬の山を歩き、古くからあるモミヤアカガシの大木を訪ねます。
実施日：平成25年11月16日(土)
実施時間：10:00～15:00頃
集合解散：宮ヶ瀬ビジターセンター（予定）
コース：宮ヶ瀬～御殿ノ森ノ頭
～春ノ木丸～宮ヶ瀬
募集人数：20名(小学生以上)
小学生は保護者同伴
応募者多数の場合には抽選
参加費：未定（お問い合わせください）
締切：10月28日(月)
※持ち物等の詳細は締切り後、返信にてご案内いたします。



県立丹沢湖ビジターセンター

- 安全登山教室「山でのトラブル対処法」
内容：山で事故にあったらどうするか、山で事故にあわないためにどうするか、を講義と実技から学びます。
開催日：平成25年10月6日(日) ※雨天決行、荒天中止
時間：10:00～16:00
募集人数：高校生以上20名 ※応募者多数の場合は抽選
参加費：1,500円
締切：9月24日(火)
集合解散：西丹沢自然教室
申込み：往復ハガキ又はFAXに行事名・参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号（返信先FAX番号）を記入し丹沢湖ビジターセンターまで。
※持ち物等の詳細は締切り後、返信にてご案内いたします。

県立秦野ビジターセンター

- 企画展「丹沢登山ふしぎ百景」
内容：丹沢の登山コース上で見られる様々な不思議なものを紹介しながら、丹沢の自然環境についてお伝えします。
期間：9月7日(土)～12月15日(日)
開館中はいつでもご覧いただけます。*入館無料
- 自然教室「丹沢登山はじめの一步」
内容：室内で登山の基礎をじっくり学び、丹沢山麓で山登りの実践をします。
日時：平成25年11月28日(木) 9:15～16:30
集合解散：秦野ビジターセンター
場所：室内と大倉尾根 大倉高原山の家まで（標高差約300m）
対象：高校生以上 25名（応募者多数の場合抽選）
参加費：1,500円（保険代込）
申込方法：往復はがきに行事名、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入し、締切日必着で秦野ビジターセンターまで。
※持ち物等の詳細は締切り後、返信にてご案内いたします。



2013

9・10月号
No.106

～自然公園から季節のたよりをお届けします～

神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

恋の季節は大忙し!

秦野ビジターセンター



オスジカ

秋、恋の季節を迎える動物がいます。8月末から11月頃まで、丹沢の山中に響く「フィーヨ〜!」という声。そう、ニホンジカです。オスが交尾期だけに出す独特の声。

この時期、オスは大きく成長した角を木の幹にこすりつけて白く磨きあげ、身体に泥を塗りつけて一年で最もカッコいい姿をライバルのオスにみせつけるのです。

林の中で、シカの痕跡をさがすと、生々しい痕を見つけることもあります。窪地のぬかるみに自分の尿をかけて、泥と一緒に体中にぬりつけた跡「ヌタ場」。その近くには、泥交じりの身体をこすりつけた「体こすり痕」。モミヤツガ、スギなど、針葉樹の幹に多くみかけます。近づいてみると、オスの黒い毛がべったりとついているのがわかります。残された足跡から、近くに立派なオスのシカがいることを感じさせられます。



角こすり痕



ヌタ場

本来、シカは県内の平野部に広く暮らしていましたが、市街地の拡大などにより、丹沢周辺に暮らすようになりました。現在、シカによる植生の荒廃などの問題が起こり、植物を守るための植生保護柵の設置、鳥獣保護区内での捕獲など様々な取り組みが行われています。(長縄)

自然公園へ出かけよう



県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzakowc/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311
開館時間 9:00～16:30 (通年)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940
開館時間 8:30～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川1659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270
開館時間 9:00～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

休館日のお知らせ

県立ビジターセンター：月曜日(祝日開館)、祝日翌日(土日開館)
1～3月第2木曜日(祝日開館)
年末年始(12/29～1/3)
箱根ビジターセンター：6月第2水曜日とその翌日、
年末年始(12/28～1/1)

編集・発行：公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8 関内ファーストビル6階

TEL:045-651-0931 FAX:045-651-0932

公園課(自然公園担当):sizenkouen@kanagawa-park.or.jp ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>

後援：丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索

西丹沢の秋間近

間もなく秋です。秋の西丹沢にはどんな楽しみがあるでしょうか？

頬を撫でるさわやかな風、透き通った青空、木々を彩る紅葉・・・など。その中でもやはり色鮮やかな紅葉が代表的なもののひとつでしょう。紅葉は例年10月になると檜洞丸など標高の高いところから始まります。次第に下へ拡がり、西丹沢自然教室では11月中旬頃と、順次私たちを楽しませてくれます。



西丹沢自然教室前の紅葉

ひのきぼらまる

鮮やかな彩りも、樹木の名がわかれば、もっと楽しみが増えるかも知れません。樹木名は葉を見るのがわかりやすいでしょう。西丹沢自然教室の周囲で見られる、彩りや形が個性的な葉はシラキ、ダンコウバイ、フサザクラなどです。西丹沢自然教室の展示室には図鑑が用意してあります。ぜひお越しになって図鑑を確認してみてください。

秋は、標高の高いところはもちろん、西丹沢自然教室の周囲など山麓でも、十分その楽しさを味わうことができます。山歩きの苦手な方もこの季節は西丹沢山麓へお出かけになって、秋を満喫して下さい。(多田)



シラキの葉

西丹沢自然教室

アシナガバチの巣

毎年、自宅の外壁にアシナガバチが「巣」を作ります。場所は、朝日のあたる建物の東側と決まっています、今年は玄関脇と、棟の真下の二か所です。



玄関脇のアシナガバチの巣

春、冬眠から目覚めたアシナガバチの女王はたった一匹で巣を作り、卵を産んで幼虫の世話をします。働きバチが羽化し始めると、巣は急に大きくなって8月から9月に最大になります。その後、10月になると雄バチそして、女王バチとなる雌バチが羽化します。交尾が終わると雄バチは死に、女王バチだけが朽木や石垣の隙間などで越冬し、次の春に備えます。

冬し、次の春に備えます。

アシナガバチは、本来おとなしいハチで巣を刺激しなければ攻撃することはありません。私もハチ達を刺激しないように距離を置いて、玄関脇の巣を観察しています。イモムシの肉団子を口移して幼虫に与え、朝露に濡れた「和紙細工のような巣」の水分を吸い取り、夜は巣を包み込むように体を張り付けて眠ります。細やかな心遣いに感心してしまいます。

おとなしいアシナガバチも巣が大きくなってくると少し攻撃的になってきます。事故が起きないように注意しなければなりません。「巣に近づかない・野山を歩くときは道を外れない・帽子を着用する・できるだけ白い服装にする・・・」事故防止のために私達ができることは沢山あります。アシナガバチの努力を無駄にしないためにも気をつけたいと思います。(石原)

箱根ビジターセンター

秋といえば・・・

秋はキノコの季節です。キノコは種類によって様々な色や形、においや感触をしているので、観察していて飽きません。



レースを身にまとっているキヌガサタケ

陣馬山周辺に生えるキノコで面白いのは、レースの様なマントを身にまとっているキヌガサタケです。キヌガサタケは見た目からは想像できない強烈な臭いを放っています。その臭いで虫を呼び寄せて、胞子を運んでもらっているのです。早朝から生えはじめて数時間後には伸び終わりますが、しなびてしまうのがはやいので、伸びきった姿を見ることが出来た人はラッキーでしょう。

これから秋が深まり、秋の花々や紅葉が目立つ季節に変わっていきます。足元に生えているキノコたちに意識を向けてみてはいかがでしょう。新しい発見があるかもしれません。(千葉)



茶色で地味なカラカサタケ



鮮やかな赤色のタマゴタケ



スポンジのようなヒメツチグリの仲間



サンゴのようなホウキタケの仲間

陣馬自然公園センター

秋から始める冬鳥ウォッチング！

丹沢湖ビジターセンター

ツグミ、ウソ、ルリビタキ・・・これらは冬を越すためにシベリアなど寒い地方や高い山から移動してきて、春にはまた北へ渡る冬鳥たちです。丹沢湖周辺では例年11月以降に見られるようになります。

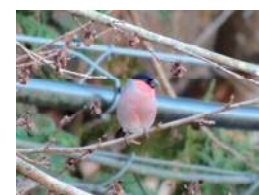
冬鳥といっても渡ってくる時期は様々で、ジョウビタキ、マガモ、オンドリなどは9～10月には丹沢湖周辺で見られるようになります。春になるまで長く観察を楽しめる鳥たちです。

ジョウビタキは人の目につく場所に出てくることも多いので、どんな行動をするか観察してみてください。よく響く声で「ヒッヒッ」と鳴いたり、木の実をついばんでいることもあります。オス、メスともになわばりをつくるので、近づいてきた他の鳥に突進して追い払う負けん気の強さも持っています。

今年はどんな行動が観察できるでしょうか？冬鳥シーズンの幕開けはもうすぐです。(櫛谷)



ツグミ



ウソ



ルリビタキ



ジョウビタキ



マガモ



オンドリ

ジョロウグモの観察

暑さも和らぐ9月頃、登山道や林道ではクモの巣が目につくようになります。

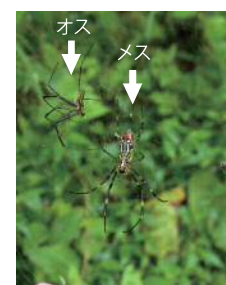


3重構造の巣

初秋の宮ヶ瀬では、餌となる虫たちが多く通る場所にジョウロウグモ(女郎蜘蛛)が巣をかけます。その巣は大きな円網と前後に立体的な網のある3重構造になっています。本拠地となる円網の真ん中に陣取るのは、ジョロウグモのメス。いつも下を向いて獲物を待ちます。獲物が巣にかかると一目散にかけつけ、捕獲用の糸でぐるぐる巻きにします。すぐに消化液で溶かしながら食べる時もあれば、後にとっておくこともあるようです。

近くには、メスよりもはるかに小さなオスが見られます。メスの最終脱皮の直後は硬直し食べられる危険性が低いため、交接のチャンスをねらっているでしょう。

巣を張り替えるのは、たいいてい半分のみを一日一回。透き通るような美しい巣は、秋の終わりには、金色に輝くようになります。紅葉する景色に合わせ、色変わりすると見えています。同じようにタテ糸や足場糸、粘着するヨコ糸など7種類あり、用途に応じてクモは使い分けられているのです。



大きなメスと小さなオス。メスは成熟するとさらに大きくなります。



成熟したメス

世間一般には不気味にされるクモですが、巣や行動など観察してみると、ますます興味をわいてくること間違いなしです！(酒井)
*交接…触肢(しょくし)に蓄えた精液をメスの体内に注入すること。

ミニコラム カエデとモミジの仲間たち

猛暑が続いた夏が過ぎ、これから秋の登山シーズンがはじまります。やはり秋の登山と言えば紅葉を目当てにされる方も多いのではないのでしょうか？

紅葉と言えば、カエデやモミジの仲間が代表的ですが、この「カエデ」と「モミジ」の違いはあるのでしょうか。実は、明確な区別はないようで、植物の分類上では、〇〇モミジという植物もすべて、カエデ科カエデ属に含まれています。日本には26種類のカエデ・モミジの仲間がいます。

ここでは、箱根、丹沢で見られるものの一部を紹介します。山歩きの際は、落ち葉の形にも注目してみてください。



イロハモミジ



オオモミジ



コミネカエデ



イタヤカエデ



エンコウカエデ



コハウチワカエデ



カジカエデ